

福岡県家具ブランド力向上支援事業 製品企画力高度化支援事業における製品開発事例 -キッズ用ツール及びテーブルの開発-

友延 憲幸*1 楠本 幸裕*1 隈本 あゆみ*1 石川 弘之*1 青木 幹太*2 志岐 直樹*3 西田 亮太*3 佐藤 圭多*4

The Project with which it's Supported to Improve the Furniture Branding The Example Product Development by The Project with which its Supported to Advance The Product Planning capability

-The Product Development of a kid's stool and a kid's desk made of solid wood-
Noriyuki Tomonobu, Hiroyuki Ishikawa, Ayumi Kumamoto, Kanta Aoki,
Naoki shiki, Ryota Nishida and Keita Sato

株式会社志岐（以下、志岐）は、テレビ台やチェストといった箱物家具の製造・販売を得意としている。しかし、それらの市場が飽和状態であることを感じ続けており、市場が比較的好調なキッズ家具への参入を考えていた。さらにキッズ家具の中でもニッチな市場である、机や椅子といった脚物家具の開発を希望していた。志岐は脚物家具の開発を行なったことはなく、1からの挑戦であった。そこで、外部の力を借りて開発ができる「福岡県家具ブランド力向上支援事業 製品企画力高度化支援事業」に参加し、製品開発に取り組んだ。

1 はじめに

本報では、「福岡県家具ブランド力向上支援事業 製品企画力高度化支援事業」（以下、本事業）における株式会社志岐（以下、志岐）の製品開発の取り組みを報告する。本事業の目的や概要については、令和2年度研究報告掲載「福岡県家具ブランド力向上支援事業 製品企画力高度化支援事業における製品開発事例（その1）」内の「1 はじめに」と「2 方法」を参照していただきたい¹⁾。また、本事業において志岐の製品開発に関わった製品開発グループおよびデザイン事業者のメンバーについて表1に示す。

表1 製品開発グループとデザイン事業者

製品開発グループ	デザイン事業者
<ul style="list-style-type: none"> ・九州産業大学 芸術学部 青木幹太教授 ・株式会社志岐 ・インテリア研究所 	<ul style="list-style-type: none"> ・ SATEREO

- *1 インテリア研究所
- *2 九州産業大学 芸術学部
- *3 株式会社志岐
- *4 Satereo

2 事業の取り組み内容

2-1 製品開発の目的

志岐は、主に箱物家具の製造を行う従業員 16 名（事業参加当時）の企業である。箱物家具の中でもテレビ台やチェストの製造（写真 1）を得意としていたが、それらの市場は飽和状態、また製品のコモディティ化が進展していると感じており、近年、あらゆる家具の中でも比較的好調なキッズ家具の市場に参入したいと考えていた。しかし、社内に専任で製品を企画する者、またデザイナーがいないこともあり、二の足を踏んでいたところ本事業を知り、専任者を立てて参加することとなった。



写真 1 志岐の既存製品「MABI」

2-2 製品コンセプトの構築とデザイン事業者の選定

製品コンセプトの構築は志岐が中心となり、適宜、製品開発グループがフォローを行う体制をとり、SWOT分析を用いて（図1）、参入するキッズ市場の分析や自社の技術的な強みや弱みの洗い出しなどを行い、その市場の中でどの製品を開発するか検討を行なった。それにより、ベビー・キッズ市場の中でもニッチな分野であり、また志岐にとっては新たな技術領域となるスツールやテーブルといった脚物家具を開発することとした。デザイン事業者に依頼する内容の仕様書の作成は製品開発グループのフォローを受け、「どのような書き振りをすることによって自分たちの意図する内容が伝わるか、理想のデザイン案が出てくるか」ということを踏まえながら、志岐が作成を行った。その結果、仕様書は、“木材の質感、手触りの良さを生かし、キッズ（幼児）から大人までのサイズバリエーションを備えた「スツール」、及び「キッズテーブル」の開発”というテーマを記載した内容となり、これに基づきデザインする事業者を公募した。

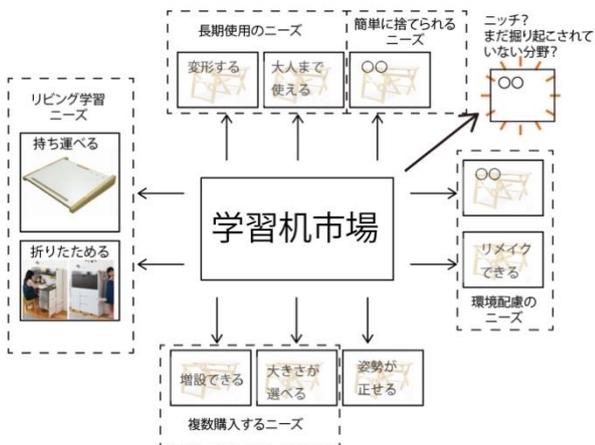


図1 SWOT分析にて市場の製品やニーズを図面化

(基本コンセプト)

未来の大人である子どもたちが木を身近に感じ好きになる、上質で、質感や手触りの良さを感ぜられる、スκανジナビアンティストのデザインで永く愛される「キッズ用スツール・テーブル」

(デザイン仕様書の主な仕様)

素材は無垢材もしくは無垢集成材とし、姿勢と座り心地を考えた形状とすること。「スツール」はキッズから大人まで使用できるサイズ展開を行うこと。

公募の結果、複数のデザイン提案の中から、現状設

備では内製が困難であるが、高い意匠性と座り心地の良さ、また使用している親子の姿がデッサンから想像できるとして SATEREO（東京都）の「totte（トッテ）」（図2）を採択した。



図2 採択した「totte スツール」のデッサン

2-3 デザイン事業者によるデザインと製品

製品開発グループと SATEREO は、特に加工が困難と思われるスツール（テーブルは、スツールが具現化できれば、同じように具現化できると想定した）については提案内容をできる限り変更せず形にするために、加工方法について検討を重ねた。座面と脚部は別々に加工を行い、のちに接合するが、ともに量産が可能となるように試作と図面の修正を重ねた。特に座面はNCによる加工が必須であるが、試作の時点で志岐が設備を保有していなかったため、NC加工機を有するインテリア研究所が主導して設計から加工まで行った。脚部は丸型形状で畳ずりの仕様となるため各部件の接合が難しかったが、様々な意見を取り入れながら志岐が主導して試作を重ね、具現化した。その結果、出来上がった「totte」スツール・テーブルは写真2である。



写真2 「totte（スツール&デスク）」

「totte」スツールは意匠の権利を保護することを目的として、志岐と福岡県との共同出願という形で、全体意匠を出願した²⁾。

3 まとめ

志岐は本事業に参加し、製品開発グループや外部有識者の協力を得て、SWOT分析などを用いて製品コンセプトを構築した。さらにそのコンセプトに基づいたデザインをSATEREOに担わせることで、高い意匠性と座り心地の良さを特徴としたスツールとスツールのデザインを反映させた「totte（スツール&デスク）」を製品化した。

製品化後、福岡デザインアワードに応募した結果、見事に金賞を受賞し、審査員からは「撫でたり座ったりすることで森に還る心地良さが味わえる」などのコメントをいただいた。

上述したとおり、試作の時点では、座面を加工する設備を保有していなかった志岐であるが、この度、事業再構築補助金に採択され設備の導入を進めて、内製による量産体制を築いている段階である。

4 参考文献

- 1) 石川弘之，隈本あゆみ，西村博之，青木幹太，酒見史裕，酒見典広，田中敏憲：福岡県工業技術センター研究報告，No. 30，pp. 21-24（2020）
- 2) 著作者：意願 2021-18552（2021）